

## 高松塚古墳旧保存施設の撤去について

### 1. 概要

特別史跡高松塚古墳の仮整備工事の一環として、旧保存施設（本体）の撤去作業を実施。

### 2. 内容

旧保存施設 2 階部分（前室）：プレキャストコンクリート（PC）組立式構造の撤去工事  
平成 20 年 11 月に工事を開始、完了

### 3. 作業スケジュール

- ・発掘調査

平成 20 年 7 月～10 月

- ・保存施設機械設備、電気設備撤去

平成 20 年 8 月

- ・2 階部分（前室）撤去

平成 20 年 11 月

- ・発掘調査

平成 20 年 12 月～平成 21 年 1 月 予定

- ・1 階部分（機械室）撤去

平成 21 年 2 月～3 月 予定

- ・発掘調査

平成 21 年 4 月 予定

- ・墳丘復元

平成 21 年 4 月～6 月 予定

現在、2 階部分（前室）の壁周辺の発掘調査を実施している。

※ なお本件については、平成 20 年 11 月 12 日（撤去開始）、同年 12 月 1 日（撤去完了）に報道発表した。

## 高松塚古墳旧保存施設の撤去について

### <旧保存施設について>

#### (目的)

修理・点検等の石室内作業を安定的環境の下で行うために設置されたもの。

作業者が石室内に出入りする際、石室内に外気の影響が及ぶことを出来る限り少なくするため、3つの前室を経て石室入口に到達する構造となっている。

#### (機能)

前室の温度を石室周辺の土中温度に保持するため、銅管パネルに常時温水(冷水)を流す「パネル系」と、前室に入室する場合に石室と同じ温度の風を前室に送風する「空調機制御系」の2系統の空調設備で保存環境を維持する。

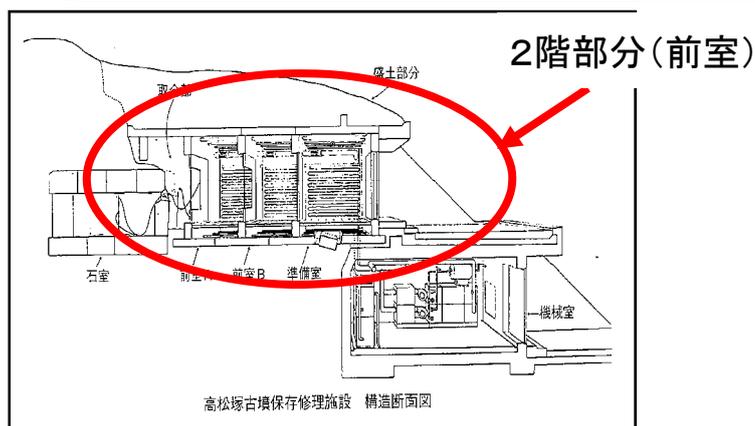
#### (経緯)

昭和47年3月 壁画発見  
昭和47年4月 文化庁に管理移管  
昭和49年7月 保存施設の着工  
昭和51年3月 保存施設竣工  
平成19年6月 施設の機能停止  
(壁石取り上げ終了時)

平成20年11月 保存施設の撤去開始

#### (仕様)

- ・地中2階建て
- ・1階 鉄筋コンクリート構造
- ・2階 プレキャストコンクリート(PC)組立式構造
- ・総工費 約9,600万円



クレーンでPCを吊り上げる(11/14)



2階部分撤去後の状況(11/28)

取合部付近にカビらしきものが確認できる

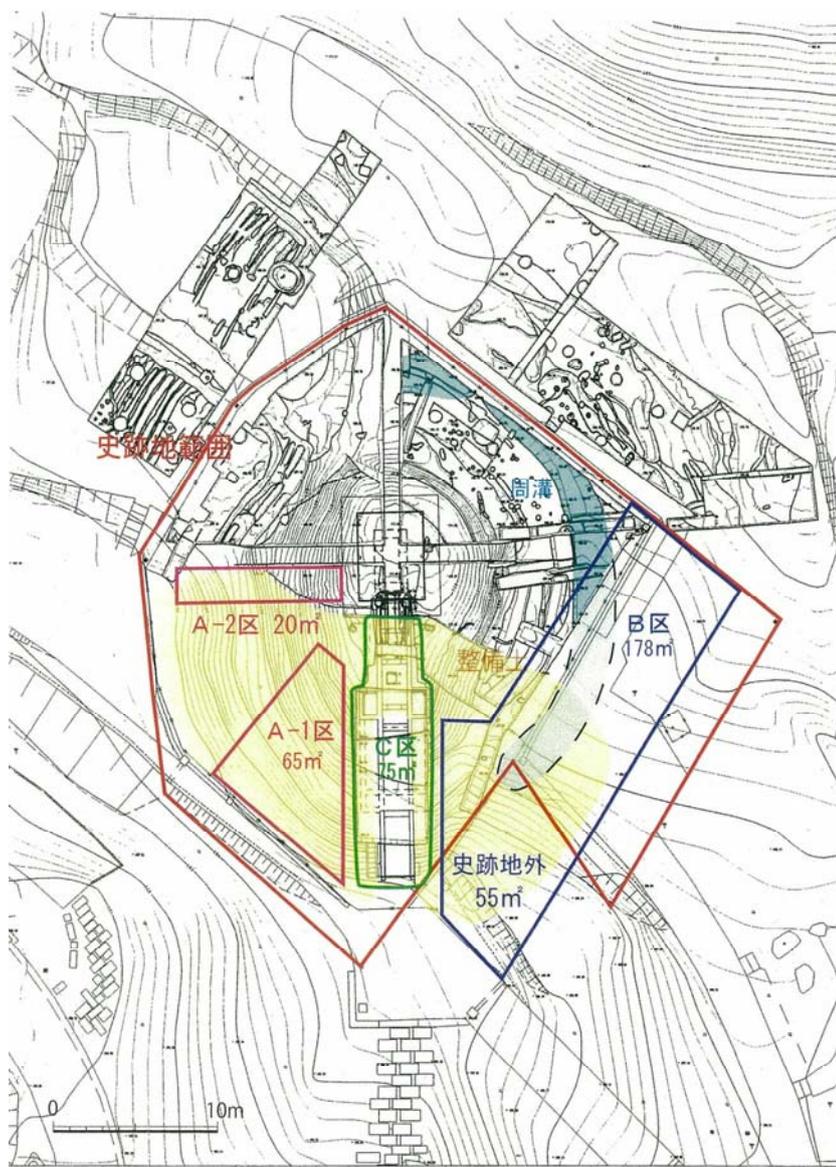
## 高松塚古墳仮整備に伴う発掘調査について

### (目的)

古墳の形態や周辺の状況が明らかになっていない南側部分を中心に発掘調査を行うことで、古墳の仮整備を適切に実施する。

### (調査)

- ・B区調査(平成20年7月～10月)
- ・A区、C区上段調査(平成20年12月～平成21年1月)
- ・以降、C区下段調査



総調査面積 338㎡  
史跡地内(現状変更部分) 283㎡  
史跡指定地外 55㎡

### <B区調査区の主な成果>

- 古墳築造後の土地利用に関する調査成果
  - ・大規模な中世遺構の検出
- 古墳に関する調査成果
  - ・周溝の検出
  - ・排水施設の検出
  - ・墳丘周辺の原地形と改変の推移

## 高松塚古墳仮整備工事について

### (目的)

石室解体(平成19年4月～8月)後、壁画・石材の修理期間(約10年間)中における古墳の仮整備を行うもの。推定される古墳の外形を見学者が体感できるようにするためのもの。

### (内容)

1. 石室解体後、埋戻しを行う。(平成19年9月～10月実施済)
2. 旧保存施設を撤去する。
3. 墳丘及び周溝等の外形を復元する。

### (手法)

- 埋戻しには、発掘掘削土、および滅菌処理した土嚢を用い、墳丘頂部からの雨水流入防止のために遮水シートを用いる。
- 墳丘の外形復元の方法は、土を厚さ30cmほど敷きならして十分に締め固めながら重ねるもの。必要に応じて不織布等の透水層を設けるなど崩落防止を考慮する。
- 墳丘の地表面仕上げは張芝とする。周溝には保護盛土を施し、排水機能を持たせる。



### <今後の作業>

- ・保存施設撤去
- ・墳丘復元

平成21年春頃完了予定

仮整備のイメージ